

【北海道経済産業局長賞】

《地域でがんばる商店街》

○中島商店会コンソーシアム

(なかじま商店街振興組合、中島中央商店街振興組合、
シャンシャン共和国商店街振興組合、中島西口商店街振興組合、
中島商店会)

室蘭市

(商店街概要)

会員数:207名

店舗数:207店舗

関連URL:<http://www.nakajima-s.com/>

当商店街は、室蘭市の東側に位置する「JR東室蘭駅」の西口から南北に900m、東西に550mに渡り街区を形成している。企業城下町として発展してきたが、産業構造の変化に伴い人口減少、大型店の撤退等から来街者が減少する中、5つの商店会組織が連携しコンソーシアムを組織、各種事業を展開し、賑わい取り戻している地域型商店街である。

(選定理由)

空き店舗を活用して交流拠点を開設し、地域住民やサークル向けにスペースを開放するほか、医師会等と連携した健康講座、室蘭工業大学の学生との連携による情報発信事業やイベント等を積極的に開催し、年間15,000人が訪れている。また、「誰もが不自由なく出かけられる街」となるべく、シェアカーやベビーカーの無料貸し出し等のサービスも行うほか、さらに、「おもてなし三箇条」を制定し店主向けに研修会を開催するほか、一店逸品運動、買い物めぐりツアー等商店街の魅力向上に取り組んでいる。

商店街



○発寒北商店街振興組合

札幌市

(商店街概要)

会員数:88名

店舗数:88店舗

関連URL:<http://hatsukita.jp/>

安政3年創建の稲荷社(現在の発寒神社)の門前町に発祥し、高度成長期は近隣の工業団地発展に歩を同じくして商店の集積が進み、昭和52年に組合としてのスタートを切った。当商店街は札幌市の西部に位置し、JR函館本線「発寒中央駅」を起点に全長1.5km南北に街区を形成している。商店街周辺は高齢化が進んでいたが、近年、交通アクセスや利便性の良さからマンションやアパート建設が進み若い世代も増加、高齢者や子供、若い母親世代が交流する場として、地域住民から親しまれている近隣型店街である。

(選定理由)

「20年後もくらしたいハツキタ」をテーマに掲げ、子供から高齢者まで多様な人が支え合い、集う商店街づくりを目指し、地域住民が交流する拠点を設置し「つけもの教室」や「子育て相談事業」等の世代間交流事業を行うほか、各種イベントを開催している。また、地域住民を対象に日々の困りごとに対応する「ハツキタくらしの安心窓口」を開設し、商店街が暮らしの安全・安心を担っている。さらに、25年12月には地域住民のニーズに応え、介護・デイサービス機能を備えたコミュニティ施設を開設、運営に乗り出す。

商店街



○ふらのまちづくり株式会社

富良野市

(会社概要)

設立:平成15年10月

代表者:代表取締役 西本 伸顕

関連URL:<http://www.furano.ne.jp/marche/>

人口約2.4万人の富良野市は北海道のほぼ中央に位置し、四季が織りなす景観美やドラマ「北の国から」に代表される物語性、また多様な農産品等豊かな地域資源に恵まれ、年間200万人を超える観光客が訪れる地である。しかしながら観光地は郊外に立地し、中心市街地の衰退が進みつつある中、民間活力によるまちづくりを基本とする中心市街地活性化計画が策定され、それに基づき整備された「フラノマルシェ」は中心市街地活性化の代表的事例として認知されている。

(選定理由)

ふらのまちづくり(株)は、富良野市中心部の病院移転に伴い、中心部の衰退に危機感を抱いた地元企業、市民からの8千万円を超える出資のもと設立され、まちづくりのコンセンサス形成の原動力となって「フラノマルシェ」を整備、運営している。

「フラノマルシェ」は、高いブランドイメージを持つ富良野産の地域資源を中心に発信するとともに、「まちの縁側」という明快なコンセプトに基づき、魅力溢れる商品を扱いながら、敢えて機能を抑えることにより、来街者の中心市街地への回遊を促し、開業以来3年8か月を経て、累計実に260万人を超える来街者を実現している。

商店街

